

薬学部に進学した先輩の声

Senior's voice



UNIVERSITY STUDENT

出身地/仙台市 出身高校/尚絅学院高等学校

Interview 01 (2018年1月当時)
東北医科薬科大学 薬学部5年
森池 咲綺 さん
Saki Moriike

薬学部へ進んだきっかけ

子どもの頃、ひどいアレルギー体質に悩まされ、診療所や薬局に通っていました。そのとき、薬剤師の方に親身に相談に乗っていただきました。その当時の経験から薬剤師になりたいと思い、薬学部へ入りました。大学ではやりたかった勉強が学べ毎日が充実しています。

大学で学んでいること

5年生になると、薬局や病院での実習が始まり、実際に患者さんに薬の服用方法や注意事項などを説明します。当初は悪戦苦闘しましたが、患者さんから「薬の説明がわかりやすくて良かったよ」と声を掛けられたときは励みになりました。

将来何をしたいか

薬剤師は薬を渡すだけが仕事ではなく、地域の患者さんとの繋がりを持つことが大事だということを実習で学びました。在宅訪問した際には患者さんだけでなく家族のみなさんが笑顔で待っていました。時には患者さんの生活も支える、信頼される薬剤師になりたいです。

Interview 02 東北大学 薬学部6年 (2018年1月当時)
菊地 葵 さん
Aoi Kikuchi

薬学部へ進んだきっかけ

医師と看護師である両親の姿を見て、多くの人たちの健康を支えたいという思いを幼い頃から抱いていました。さらに化学が好きだったので薬学部に進学しました。私が通うキャンパスには大学病院が併設され、常に協力して研究を行うことができるなど学ぶ環境が充実しています。

大学で学んでいること

同じ薬であっても、患者さんによって出る作用が異なることが分かってきています。薬をより効果的に使うためには、どれくらいの量を患者さんに与えれば良いのかなど、病院で実際に使われている薬の作用を調べているので、医療現場に近い研究を行っています。

将来何をしたいか

新しい薬を待っている重症の患者さんと接する機会がありました。新しい薬を患者さんに使うには、薬の効き目や安全性を確認するための臨床試験(治験)を適切に行わなければ、本当の効果が評価されません。患者さんに有効な新しい薬を届ける治験に関わる仕事がしたいです。



UNIVERSITY STUDENT

出身地/仙台市 出身高校/宮城県仙台二華高等学校

宮城県薬剤師会の活躍

Activities of the Pharmaceutical Association

01 避難所・救護所等での支援活動

東日本大震災において、避難所・救護所の被災者の方々は慢性疾患を抱えている方が多く、所持している医薬品も手持ちが少ない状況がありました。医薬品を手に入れにくい方々のため、「お薬相談」を実施し、おくすり手帳や医薬品情報をもとに、薬剤師が調剤や服薬指導、健康相談を行いました。また、避難所のような集団生活ではどうしてもノロウイルスなどの感染症が発生しやすくなります。そのため、「うがい・手洗い・換気」の徹底を指導し、生活衛生の改善に努めました。



内部には災害時にも対応できるように、薬を収める錠剤棚や、粉薬を包むための散剤分包機、電子天秤や保冷庫、水剤の調剤用の清水タンクが備わっています。

02 震災から生まれたモバイルファーマシー

東日本大震災発生直後の支援活動では、毎日薬が届くにも関わらず、津波で薬局は流され調剤に必要な機器はなく、計量・保存も難しく、調剤ができる状態ではありませんでした。そうした震災時の経験を踏まえ、宮城県薬剤師会は、生活に必要なインフラが整うキャンピングカーをヒントに、移動型薬局として、日本で最初に「Mobile Pharmacy (モバイルファーマシー)」を企画・制作しました。2012年の日本薬剤師学術大会で初めて発表されて以来、学会や防災訓練の参加などにより少しずつ認知されるようになり、宮城県に習って、全国で配備の動きが広まってきています。機動性に優れ、医薬品を自立的に調剤して提供できる「動く薬局」が、災害時において薬剤師の支援活動の拠点となるように、更なる普及が期待されています。

03 熊本地震では宮城県薬剤師会が応援として派遣

2016年4月に発生した熊本地震では、日本薬剤師会主導による災害医療支援体制が確立され、宮城県薬剤師会からは8人が派遣されました。宮城県薬剤師会は、災害時に被災者の方々へ、しっかりとサポートを行うため、支援活動体制強化を目指しています。

Check!

今も続く「薬剤師不足」の現状

宮城県では「薬剤師の不足」が課題の一つとなっています。2016年度における10万人あたりの薬剤師数で比べると、宮城県は229.8人と全国平均を7人以上も下回っています。また宮城県の中で見ると、仙台・塩釜エリアが267.3人と高い水準なのに対し、他のエリアは少なく、都市部に薬剤師が集中しています。こうした偏在を解消するためにも、今、地域医療を支える若手薬剤師の力が求められています。

人口10万人あたりの薬剤師数

